

皆様おはようございます。

今週から3月に入ります。三寒四温、春の七雪とは言いますが、今朝もうすらと雪の積もる朝でした。

今日から受難節に入りました。そして5週を過ぎますと受難週であり、4月7日は受難日、そして4月9日はイースターです。クリスマスに次いで、テレビのCMでイースターのセールか何かでしょうか、イースターという言葉も時々見かけるようになりました。

長らく読み進めてまいりました默示録も今日で終わりとなります。

先週は、「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、人の目から涙を全くぬぐいとて下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。」との美しい節があり、また宝石の輝くきらびやかな都の姿が語られました。

「わたしは、この都の中には聖所を見なかった。全能者にして主なる神と小羊とが、その聖所なのである。都は、日や月がそれを照す必要がない。神の栄光が都を明るくし、小羊が都のあかりだからである。」との御言葉も、慰め深いものでした。

今日もまた神様の都についての描写が続きます。

1 御使はまた、水晶のように輝いているいのちの水の川をわたしに見せてくれた。この川は、神と小羊との御座から出て、

2 都の大通りの中央を流れている。川の両側にはいのちの木があって、十二種の実を結び、その実は毎月みのり、その木の葉は諸国民をいやす。

ヨハネ 7:37 祭の終りの大事な日に、イエスは立って、叫んで言われた、「だれでもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい。

7:38 わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その腹から生ける水が川となって流れ出るであろう」。

7:39 これは、イエスを信じる人々が受けようとしている御靈をさして言われたのである。

ヨハネ福音書で描かれていたのは聖靈である生ける水の川でした。神様の都には、文字通りの輝くいのちの水の川があり、その川の両側にはいのちの木があって、その実(いのちの実?)をもたらし、その葉は諸国民を癒すとのことです。

いのちの木と川と言いましたら創世記の御言葉が思い出されます。

創世記 2:8 主なる神は東のかた、エデンに一つの園を設けて、その造った人をそこに置かれた。

2:9 また主なる神は、見て美しく、食べるに良いすべての木を土からはえさせ、更に園の

中央に命の木と、善悪を知る木とをはえさせられた。

2:10 また一つの川がエデンから流れ出て園を潤し、そこから分れて四つの川となった。

2:16 主なる神はその人に命じて言われた、「あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。

2:17 しかし善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きっと死ぬであろう」。

3:22 主なる神は言われた、「見よ、人はわれわれのひとりのようになり、善悪を知るものとなつた。彼は手を伸べ、命の木からも取って食べ、永久に生きるかも知れない」。

3:23 そこで主なる神は彼をエデンの園から追い出して、人が造られたその土を耕させられた。

3:24 神は人を追い出し、エデンの園の東に、ケルビムと、回る炎のつるぎとを置いて、命の木の道を守らせられた。

もともと人は神様のお言いつけを破ってしまう前は命の木の実を食べることを禁じられてはいませんでした。しかし罪を犯したのちはそれを食べることが禁じられ、それを食べないようにとエデンの園から追放されました。

ローマ 6:23 罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。

罪の支払う報酬は死であり、すなわちいのちの木の実を食べることが許されなくなることですが、それに代わるものはイエス様の贖いによって与えられる永遠の命でした。

ヨハネ 6:40 わたしの父のみこころは、子を見て信じる者が、ことごとく永遠の命を得ることなのである。そして、わたしはその人々を終りの日によみがえらせるであろう」。

6:41 ユダヤ人らは、イエスが「わたしは天から下ってきたパンである」と言わされたので、イエスについてつぶやき始めた。

6:47 よくよくあなたがたに言っておく。信じる者には永遠の命がある。

6:48 わたしは命のパンである。

6:49 あなたがたの先祖は荒野でマナを食べたが、死んでしまった。

6:50 しかし、天から下ってきたパンを食べる人は、決して死ぬことはない。

6:51 わたしは天から下ってきた生きたパンである。それを食べる者は、いつまでも生きるであろう。わたしが与えるパンは、世の命のために与えるわたしの肉である」。

6:52 そこで、ユダヤ人らが互に論じて言った、「この人はどうして、自分の肉をわたしたちに与えて食べさせることができようか」。

6:53 イエスは彼らに言われた、「よくよく言っておく。人の子の肉を食べず、また、その血を飲まなければ、あなたがたの内に命はない。

6:54 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者には、永遠の命があり、わたしはその人を終りの日によみがえらせるであろう。

6:55 わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物である。

6:56 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者はわたしにおり、わたしもまたその人による。

6:57 生ける父がわたしをつかわされ、また、わたしが父によって生きているように、わたしを食べる者もわたしによって生きるであろう。

6:58 天から下ってきたパンは、先祖たちが食べたが死んでしまったようなものではない。このパンを食べる者は、いつまでも生きるであろう」。

イエス様は、誠にいのちのパンとなられ、私たちのための命の木となって下さいました。

イエス様は私たちを贖い命を与え、聖靈を注いでくださいました。こうして私たちをいのちの実と水とに満たしてくださいました。

詩編 1:1 悪しき者のはかりごとに歩まず、罪びとの道に立たず、あざける者の座にすわらぬ人はさいわいである。

1:2 このような人は主のおきてをよろこび、昼も夜もそのおきてを思う。

1:3 このような人は流れのほとりに植えられた木の／時が来ると実を結び、その葉もしばまないように、そのなすところは皆榮える。

3 のろわるべきものは、もはや何ひとつない。神と小羊との御座は都の中にあり、その僕たちは彼を礼拝し、

4 御顔を仰ぎ見るのである。彼らの額には、御名がしるされている。

5 夜は、もはやない。あかりも太陽の光も、いらない。主なる神が彼らを照し、そして、彼らは世々限りなく支配する。

神様の救いのゆえにすべてのものは過ぎ去り、神様の怒りによって呪われるべきものは何一つなくなりました。

「夜はもはやない。」暗闇はもうありません。苦労も嘆きも涙も叫びも、過ぎ去りました。

「あかりも太陽の光も、いらない。」このあかりという言葉は、明るい照明という意味の

ほかにも、命とか希望とか、精神的にもたましいにも明るさをもたらすという意味が含まれています。人生の光明、一筋の光にすがって…という話を聞きますが、そういう有難い慰めの明かりや、光と熱を与える、この世界の必要不可欠な太陽でさえも要らないとあります。これはどういう事でしょうか。

「主なる神が彼らを照し、そして、彼らは世々限りなく支配する。」

「その実は毎月みのり、その木の葉は諸国民をいやす」

主なる神様が神の国の諸国民を照らし、生かし、慰め、癒します。諸国民。これは神の「民」という言葉としばしば使い分けがなされていた言葉でした。かつては異邦の民であったのに、遠く隔たっていたのに、今は近くされた民の事です。

主なる神が民を照らしてくださいます。命と希望に満たしてくださいます。そして彼らは代々限りなく支配します。主の御心を成す者が主に従い、主の導きの中、世界に仕え、主の御心を成し遂げるのです。

6 彼はまた、わたしに言った、「これらの言葉は信すべきであり、まことである。預言者たちのたましいの神なる主は、すぐにも起るべきことをその僕たちに示そうとして、御使をつかわされたのである。」

7 見よ、わたしは、すぐに来る。この書の預言の言葉を守る者は、さいわいである。」

呪われるべきものはもはや何一つなく、不穏と苦悩と悩みと死の夜はもはやなく、主なる神が照らす朝がやってきました。

すぐにでも起こるこの神の都での出来事があり、主はすぐに来ると語られます。すぐにいう言葉が、この章では幾度となく出てきます。であるから忍耐し、身を清めなさい、「この書の預言の言葉を守る者は、さいわいである」と語ります。

「この書の預言の言葉」。この預言の言葉は、神様の宣教、メッセージの贈り物です。時が近いこの時、大きな新しいことが起こるこの時、新しくされるこの時、時が近づいているこの時、神様からの語りかけは、私たちを救う神様からの賜物、プレゼントです。

8 これらのことを見聞きした者は、このヨハネである。わたしが見聞きした時、それらのことと示してくれた御使の足もとにひれ伏して拝そうとすると、

9 彼は言った、「そのようなことをしてはいけない。わたしは、あなたや、あなたの兄弟である預言者たちや、この書の言葉を守る者たちと、同じ僕仲間である。ただ神だけを拝しなさい。」

10 またわたしに言った、「この書の預言の言葉を封じてはならない。時が近づいているから

である。

輝く衣を着てきらびやかに突然現れは突然消える神秘的な御使いさえも、私たちと同じ主に仕える者です。

11 不義な者はさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うままにさせよ」。

12 「見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう。

13 わたしはアルパであり、オメガである。最初の者であり、最後の者である。初めであり、終りである。

14 いのちの木にあずかる特権を与えられ、また門をとおって都にはいるために、自分の着物を洗う者たちは、さいわいである。

15 犬ども、まじないをする者、姦淫を行う者、人殺し、偶像を拝む者、また、偽りを好みかつこれを行う者はみな、外に出されている。

やがてすぐに来るその時のために、前章では燃える火の池に悪魔らが投げ入れられ、裁きが終わつたかに見えるこの時、なおも、今の今まで、悔い改めが説かれていることが不思議です。

私たちは、選ばれ、救いに入れられていてもなお、自らを吟味し、救いの中にいるように努めることが求められています。

2コリント 13:4 すなわち、キリストは弱さのゆえに十字架につけられたが、神の力によつて生きておられるのである。このように、わたしたちもキリストにあって弱い者であるが、あなたがたに対しては、神の力によって、キリストと共に生きるのである。

13:5 あなたがたは、はたして信仰があるかどうか、自分を反省し、自分を吟味するがよい。それとも、イエス・キリストがあなたがたのうちにおられることを、悟らないのか。もし悟らなければ、あなたがたは、にせものとして見捨てられる。

13:6 しかしあたしは、自分たちが見捨てられた者ではないことを、知っていてもらいたい。

2コリント 6:1 わたしたちはまた、神と共に働く者として、あなたがたに勧める。神の恵みをいたずらに受けてはならない。

6:2 神はこう言われる、／「わたしは、恵みの時にあなたの願いを聞きいれ、／救の日にあなたを助けた」。見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である。

6:3 この務がそしりを招かないために、わたしたちはどんな事にも、人につまずきを与えないようにし、

6:4 かえって、あらゆる場合に、神の僕として、自分を人々にあらわしている。すなわち、

極度の忍苦にも、患難にも、危機にも、行き詰まりにも、

6:5 むち打たれることにも、入獄にも、騒乱にも、労苦にも、徹夜にも、飢餓にも、

6:6 真実と知識と寛容と、慈愛と聖霊と偽りのない愛と、

6:7 真理の言葉と神の力とにより、左右に持っている義の武器により、

6:8 ほめられても、そしられても、悪評を受けても、好評を博しても、神の僕として自分をあらわしている。わたしたちは、人を惑わしているようであるが、しかも真実であり、

6:9 人に知られていないようであるが、認められ、死にかかっているようであるが、見よ、生きており、懲らしめられているようであるが、殺されず、

6:10 悲しんでいるようであるが、常に喜んでおり、貧しいようであるが、多くの人を富ませ、何も持たないようであるが、すべての物を持っている。

ビリピ 3:8 わたしは、更に進んで、わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損思っている。キリストのゆえに、わたしはすべてを失ったが、それらのものを、ふん土のように思っている。それは、わたしがキリストを得るためにあり、

3:9 律法による自分の義ではなく、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基づく神からの義を受けて、キリストのうちに自分を見いだすようになるためである。

3:10 すなわち、キリストとその復活の力とを知り、その苦難にあづかって、その死のさまとひとしくなり、

3:11 なんとかして死人のうちからの復活に達したいのである。

3:12 わたしがすでにそれを得たとか、すでに完全な者になっているとか言うのではなく、ただ捕えようとして追い求めているのである。そうするのは、キリスト・イエスによって捕えられているからである。

3:13 兄弟たちよ。わたしはすでに捕えたとは思っていない。ただこの一事を努めている。すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、

3:14 目標を目指して走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである。

ローマ 12:1 兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき靈的な礼拝である。

12:2 あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである。

ローマ 1:16 わたしは福音を恥としない。それは、ユダヤ人をはじめ、ギリシャ人にも、すべて信じる者に、救を得させる神の力である。

16 わたしイエスは、使をつかわして、諸教会のために、これらのことあなたがたにあかした。わたしは、ダビデの若枝また子孫であり、輝く明けの明星である」。

17 御靈も花嫁も共に言った、「きたりませ」。また、聞く者も「きたりませ」と言いなさい。かわいっている者はここに来るがよい。いのちの水がほしい者は、値なしにそれを受けるがよい。

18 この書の預言の言葉を聞くすべての人々に対して、わたしは警告する。もしこれに書き加える者があれば、神はその人に、この書に書かれている災害を加えられる。

19 また、もしこの預言の書の言葉をとり除く者があれば、神はその人の受くべき分を、この書に書かれているいのちの木と聖なる都から、とり除かれる。

20 これらのことあかしするかたが仰せになる、「しかし、わたしはすぐに来る」。アーメン、主イエスよ、きたりませ。

21 主イエスの恵みが、一同の者と共にありますように。

そしてその時。私たちはイエス様を間近に見るので。私たちは主よ來たりませと語り、主は私たちに現れて下さいます。その時に主に受け入れていただける人は幸いです。
いのちの水が欲しい者、値なしに飲むがよい。すでに吾、汝のために代価を支払えばなり。
ハレルヤ、主に感謝します。アーメン、主よ来てください。
この恵みの中にすべての諸国の民が入れられますようにと願います。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。呪われるものはなく、夜もなく、神は自ら人と共にいて、その神となり、目の涙をことごとくぬぐい取ってくださり、もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない、そういう時がすぐに起こるとの慰めをありがとうございます。そこに至るためにきよめられたものとして神の御心を行い、行いを吟味して悔い改め、自らの着物を洗いつつ、「主よ、来てください」と、

その日を待ち望みます。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようにお願いいいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン